

東教育財団だより

平成二十九年 事業計画及び

収支予算の概要

東教育財団の平成二十九年 事業計画及び収支予算は、三月九日開催の理事会の決議を経て、同日引き続き開催された評議員会において承認されたが、その概要は次のとおりである。

基本財産運用収益の減少

既報のとおり、長引く経済不況を克服するため、大幅な金融緩和が進められ、超低金利政策(平成二十八年二月から「マイナス金利」政策)がとられており、全国の財団が運用収益の減少から免れられない状況にある。

当財団においても、保有する第五十一回共同発行地方債(額面金額五億円 利率一・九〇%)が平成二十九年六月二十三日に

発行所
公益財団法人
東教育財団
大阪市中央区南本町
2-2-11 堺筋本町
西尾ビル6階
電話06(6262)7363
発行責任者 長谷隆雄

満期償還となるため、本年度の運用収益が昨年度比で約六百四十万円の減となる。

したがって、平成二十九年度の助成事業については、助成対象事業及び助成対象団体は昨年度と同様とするが、助成額については、前年度助成額から概ね三割を減じた額とし、これにより充足できない運用収益減少額は管理費の節減により賄う。



(理事会会議風景)

平成二十九年 事業計画

● 助成事業

助成対象事業

① 学校教育事業助成

中央区内の学校教育の充実・発展に寄与し、且つ、当該校園の独自性や特色を持つ事業

② 社会教育・生涯学習事業助成

中央区内の社会教育や生涯学習の充実・発展に寄与する事業

③ 地域文化・まちづくり事業助成

中央区内の地域文化や東地区五地域のまちづくりの振興に寄与する事業

助成対象団体

① 学校教育事業助成

中央区内に所在する公立の幼稚園、小学校及び中学校

② 社会教育・生涯学習事業助成

社会教育や生涯学習の活動を行う社会教育団体及び生涯学習団体

③ 地域文化・まちづくり事業助成

地域文化・まちづくり活動を行う団体



(評議員会会議風景)

助成限度額

平成二十八年 助成額から概ね三割を減じた額とするが、事業毎の助成限度額は、端数整理もあり、個々に定める。

● 広報啓発事業

『東教育財団だより』発行事業

財団の事業と大阪の文化・歴史を紹介する季刊誌を発行（年四回）

平成二十九年収支予算

● 収入（經常収益計）

三三、〇〇、〇〇〇円

（前年度比 ▲六、四〇〇、〇〇〇円）

● 支出（經常費用計）

三三、五六八、〇〇〇円

（前年度比 ▲六、四〇〇、〇〇〇円）

【事業費計】

二二、六四三、〇〇〇円

（前年度比 ▲六、〇五〇、〇〇〇円）

【管理費計】

一〇、九九五、〇〇〇円

（前年度比 ▲二五〇、〇〇〇円）

● 差引（当期経常増減）

五五八、〇〇〇円

助成事例の紹介

平成二十八年度に助成した事業の具体例を紹介します。

○ 学校教育事業助成

船場の伝統を

「社会に有為な人材育成」

開平小学校では、平成六年当時の教職員が編纂した『わが町船場』を活用して、地域学習の視点を採り入れた授業研究を行った。



（授業研究発表風景）

学年別の実践事例は、「一年生」か「いへいしまむかし たんけんたい」・「二年生」つながり たんけんたい」・「三年生」地域のお祭りを知

ろう」・四年生「大阪私塾たんけんたい」・適塾」・五年生「仕事ってなんだろう」船場の企業家から学ぼう」・六年生「地域に伝えよう！開平・船場ガイド」である。



（水上バス体験）

○ 学校教育事業助成

「日本語指導・図書館活動」

南中学校では、四割を超える外国籍又は外国にルーツを持つ生徒に対する日本語指導や文化指導に必要な教材や教材作成資材を充実することに、これらの指導を効果的に行い、学習者の意欲を向上させた。また、日本語能力検定

試験を導入し、日本語能力判定の客観化を図った。

さらに、外国籍等生徒を含む生徒全体の日本語力・国語力を増進させ、確かな学力を身につけさせるため、図書館活動を充実させた。



（学習風景）

（助成額八十万円）



（日本語能力認定書）

○ 地域文化事業助成

谷町キッズ

「夏休みわくわく教室」



(谷町キッズ楽団練習風景)

NPPO法人「音楽文化芸術振興会」では、「谷町キッズ・ポップ・フィルハーモニー」を始動させ、中央区内の幼稚園児や小・中学生が、音楽を通して、他者への思いやりを育て、コミュニケーション能力を磨くことができるよう、夏季休業期間中に演奏などの各種音楽関連イベントを開催した。

(助成額二十万円)

○ 地域文化事業助成

「第六十回大阪新能」

大阪新能委員会では、八月十一・十二の両日の夜、半世紀を超えて続く大阪新能を生國魂神社境内特設舞台で上演するとともに、初日十一日昼に今年で三回目となる「ヤングNOH能キッズ&学生真夏の大コンクール」を開催し、大阪の伝統文化への理解を深め、次世代へ受け継ぎ、新しい芽を育てた。

(助成額二十万円)

○ 地域まちづくり事業助成

南大江地域「地域文化祭」

南大江たんぼほの会は、十二月



演目：生國魂（いくたま）



四日に南大江小学校で南大江地域文化祭として、地域住民の絵画・書道・写真・陶芸・手芸等の作品展、並びに、舞踊・器楽・コーラス等の舞台発表会を開催し、同校運動場ではドリウムカーニバルを開催した。

これらの事業により、地域住民相互の交流が図られ、ふれあいのあるまち南大江まちづくりが推進された。

(助成額二十万円)



おおさかべんおもしろこう 大阪弁面白考 — 大阪弁の格言 —

大阪船場生まれの郷土史家牧村史陽が編んだ『大阪ことば事典』には、三百もの「大阪シャレ言葉」が五十音順に整理して紹介されているが、センチ場や糊かいもんなど今の若い人には不明なことばや言い回しがある。

そこで、ここでは昭和生まれの我々世代が格言的によく使うことばを紹介する。ここからも大阪人の気質や思考法が読み取れる。

● ええ仕事しまっせ

「あんたを見込んで頼むわ」と言われて、「ええ仕事させてもらいます」と返すのが普通だが、大阪人は仕事が好きで仕事という言葉をいろんなところで使う。炊飯器のテレビコマーションでは「この炊飯器、いい仕事しますよ」と女性料理研究家がPRする。だが、女性を口説くときに使うと卑猥になる。

● グリコのおマケや

江戸時代、江戸の人々にとつて、上方から下ってくるものは「いいもの」、そこから

うでないものは「つまらないもの」であった。だから、贈り物をするとき「くだらないものですが」が長年の慣用語であった。道頓堀の「グリコの大看板」が有名になった今では「グリコのおマケや」ともいう。



● 言葉 丸投げすんなよ

ある工事を大手ゼネコンが落札し、子会社に請け負わせる。その子会社は何の手も加えずにマージンだけ取ってそのまま孫会社に渡す。これを「丸投げ」という。言葉の場合は、人から聞いた意見をそのまま他の人に自分の意見のように伝える、ということ。この場合のマージンは「自分自身で考えたいように思わせる」ことである。

● 最近 どや?

大阪人は、最近どや?との間にいろんな意味を込める。「仕事うまいこといつてるか」「体の具合はどやねん」「奥さんと仲良うやつてるか」と相手の目を見て探ったうえで、肩をポンと

叩いて「頑張れよ」との思いを込めて「どや?」と締めくくる。「どのようにお過ごしですか」よりズツと情が深い。

● 酒の力借りたら

返さんとアカンからな

同僚のS君。「人と仲良うなるには酒が一番や」と、V-GTPが六百を超えてドクターストップがかかっているのに飲み続けてあえなくダウン。S君が入院先の病院で吐いたのがこのセリフ。さらに後日談があつて、S君は享年五十八歳で死去。奥さんは「それにしても利息が高すぎました」と嘆息された。

● ソレはアレやからな

気心の知れた大阪人同士では「ソレはアレやろ?」「確かにソレはアレやけど、アレもソレやからな」という会話が成り立つ。説明を憚るのでソレと省略し、説明が面倒でアレと省略する場合が多い。最近、固有名詞等の度忘れが酷い筆者は、この便利なソレ・アレを多用・乱用する。

● 吐いてばかりおらんと、

たまには吸うたれ

のべつまくなく(＝間断なく)喋り

まくる輩に「吐いてばかりおらんと、たまには吸うたれ」と注意すると、意外に効き目があつて静かになる。

● 無理はせなあかん

けど無茶はしたらあかん

「頑張らなあかんけど、頑張りすぎてもあかん」の意だが、無理と無茶の境界はどこらへんにあるのか。大阪のオバチヤンは「風邪をひけへんうちは無理で、風邪をひいたら無茶や」と答えた。

● 割れたんちやうやろ

割ったんやろ

夫「ええワインもろてん。あのバカラのワイングラス出してーナ」妻「あれ割れてもてん」夫「割れたんちやうやろ 割ったんやろ」

大阪人のよく使う格言のことばは「よう知らん」し、紙幅も尽きたし、ここらで止める。

(槇野 勝・記)

*このコラム欄への投稿を募ります。テーマは「おおさか」です。一五〇〇字程度でお願いいたします。